



2025.2.28
第186号

変化に対応する



域内三支会
会長 田中裕志

私は、平成十年に会津若松市で司法書士事務所を開業しました。当時は、登記を申請するには、その土地の法務局に直接出て書いて書面を提出しなければなりませんでした。現在は、インターネットを通じてオンラインと郵送のハイブリッドの方法で、現地に行かずに全国どここの法務局にも申請できます。

このほかにも、顧客やスタッフ間のコミュニケーションをチャットやオンライン映像で行うなど、仕事の仕方がずいぶん変わりました。インターネットの普及で、場所や時間を問わなくなり、便利になりました。しかし、その反面、全国の同業者との競争にさらされることにもなりました。

そのような変化の中、それに対応するために業務や事務所運営で様々な判断を迫られることがあります。難しい選択の場合には、感情が大きく動きます。判断の材料となるのは、事実と知識であることが多いです。正しい認識のもと、決断して行動するように努めています。(なかなか思うようにいかないことが多いですが)

振り返ってみると、このような判断や行動の過程で役に立っているのは、私の場合には読書と部活動の経験であるように思います。知識を得たり情報を読み取ったりする力は、読書の習慣によって培われたかなと感じます。また、決断の勇氣や、うまくいかないときに楽観的にいられるのは、日々の部活動(運動)のおかげだと思っています。

発行

福島県市町村教育委員会
北会津支会
北会津支会
北会津支会

編集

福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力

小・中学校長会

令和6年度 各種受賞紹介 (敬称略)

文部科学大臣表彰

- 地方教育行政功労者
猪苗代町教育委員会 教育長 宇南山忠明
- 地域文化功労者表彰
慶徳稲荷神社お田植えまつり保存会 代表 和田 典久(喜多方市)
- 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動
喜多方市立塩川中学校
- 学校保健及び学校安全表彰
会津若松市立城南小学校 学校医 米山 高仁
喜多方第三中学校 学校歯科医 物江 暁
- 優秀教職員(教職員組織)
猪苗代町立猪苗代中学校

県教育委員会表彰

- 学校教育功労者
会津若松市立第三中学校 校長 長谷川浩文
- へき地教育功績顕著な団体
西会津町立西会津中学校
- 社会教育功労者 湯川村社会教育委員会委員長 菊地 正孝
- 文化財保護功労者 会津若松市文化財保護審議会委員 渡邊 明
- 優秀教職員
会津若松市立第三中学校 養護教諭 渡部かおり
西会津町立西会津中学校 栄養教諭 山口 郁恵
- 福島県教職員研究論文
特選 三島町立三島小学校 (代表)校長 長澤 敏行
三島町立三島中学校 (代表)校長 酒井 康雄
入選 昭和村立昭和小学校 教諭 岩谷 友太
入選 福島県立茨高高等学校 教諭 村松こずえ

県学校関係緑化コンクール

- 《学校林等活動の部》
- 知事賞・福島民報社長賞
会津若松市立川南小学校
教育長賞
会津若松市立湊学園
- 《学校環境緑化の部》
- 知事賞・福島民友新聞社長賞
会津若松市立川南小学校
教育長賞
会津若松市立大戸小学校
- 関東森林管理局長賞
喜多方市立第一小学校

県学校歯科保健優良校表彰

- 優秀賞
会津若松市立河東学園(前期課程)
喜多方市立第一小学校
喜多方市立上三宮小学校
喜多方市立第三小学校
喜多方市立駒形小学校
北塩原村立裏磐梯小学校
湯川村立茨川小学校
- 努力賞
磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立松山小学校
湯川村立勝常小学校
会津美里町立新鶴小学校
- 奨励賞
三島町立三島小学校
磐梯町立磐梯中学校
喜多方市立高郷中学校

活動奨励賞

- 会津若松市立大戸小学校
磐梯町立磐梯第一小学校

学校保健表彰

- 学校保健功労者
磐梯町立磐梯中学校 学校医 屋島 治光
会津支援学校竹田校 学校歯科医 今泉 貞雄
会津学鳳高等学校 学校歯科医 佐藤 光

県学校給食優良団体・功績者表彰

- 学校給食優良団体
会津若松市立城南小学校
- 学校給食功労者
喜多方市立山都小学校 栄養教諭 渡部由布香
会津美里町立高田小学校 主任栄養技師 佐藤千恵子
- 県教育長賞(県産食材活用部門)
西会津町給食センター

ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)

- 会津若松市立一貫小学校
会津若松市立小金井小学校
喜多方市立熊倉小学校
会津若松市立第二中学校
西会津町立西会津中学校

食育推進優秀校表彰

- 優秀賞
磐梯町立磐梯第一小学校
- 優良賞
喜多方市立会北中学校
西会津町給食センター

(令和7年2月3日現在)

あれもしたい これもしたい もっと もっと したい



湯川村教育委員会教育長

二瓶 重和

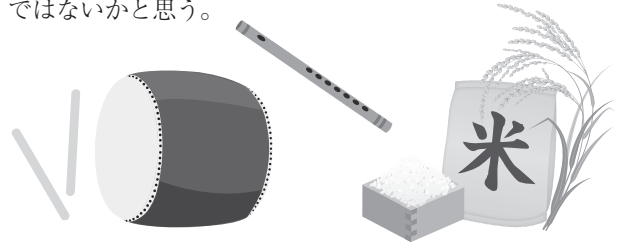
湯川村の長年の懸案事項であった小学校の統合について、今年度「湯川村の小学校のあるべき姿検討委員会」が立ち上げられ、現在2校ある小学校の統合に向けた報告書の提出を受けた。これからの数年間は、統合小学校の開校に向けての準備を進めていくことになる。

「いじめ」や「不登校」の未然防止のために、まずは先生方に「発達支持的生徒指導」の実践力を高めてほしいと考えている。村教育委員会として「人間関係づくり」の研修会を開催し、「“あたたかさ”と“けじめ”のある学級づくり」をこれまで以上に推進したい。

湯川村のキャッチフレーズである「米と文化の里」を学校からも発信したい。湯川村では小学校でも中学校でも、総合的な学習の時間に「稲作」を行っているが、「田植え・稲刈り・自分たちで味わう」に留まっている。例え

ばコミュニティ・スクールの活動の一環として、道の駅を訪れたお客さんに「わたしたちが育てた米」を試食していただくなど、「湯川米」と一緒にもっと「湯川村の教育」をアピールできないか。「文化の里」については、勝常小学校は県の重要無形文化財に指定されている「勝常寺の念佛踊り」で笛や太鼓の演奏などで重要な役割を担っており、多くの方々にご覧いただいている。笈川小学校でも地区に眠っているリソースを掘り起こし、新たな教育活動を生み出したい。そして両校の子どもたちが互いの学習の成果を発表し合う場を設定したい。

子どもたちが笑顔で学習活動に取り組む姿を見るたびにうれしくなる。子どもたちの姿を思い浮かべながら授業構想を練ることが「教材研究」であるし、先生方が放課後や休日にふと自分の理想について想いを巡らせるようになることこそが、本当の意味で「働き方改革」なのではないかと思う。



我がまちからの情報発信

猪苗代町教育委員会

猪苗代町歴史民俗資料館-過去を見つめて明日を拓く-

猪苗代町は、史跡「会津藩主松平家墓所」「猪苗代城跡」などの国指定文化財10件、県指定文化財12件、町指定文化財39件を持ち、登録有形文化財「野口英世生家主屋」や埋蔵文化財包蔵地157ヶ所が登録されている悠久の歴史と豊かな文化に育まれた地域です。町内には有形無形の文化財や生活文化に基づく年中行事・民俗芸能など長い歴史の中で自然や風土、社会や生活を反映しながら伝承され発展してきたものが数多く残されており、そして、それぞれの文化財が先人の豊かな感情と精神活動の軌跡を示す「町」の個性となっています。

これらの先人が残してくれた貴重な歴史と文化を保存活用することにより、教育や文化の向上と共に文化資源としての活用寄予することを目的として、令和4年4月に猪苗代町歴史民俗資料館を開館しました。

「町」の個性を守り、後世に伝えていくことは、将来の世代のため現代に生きる私たちに課せられた大事な使命であり、考えていかなければならない重要な課題の一つです。

私たちは今、町の歴史や文化を正しく理解することが肝要であり、それが自分たちの郷土を見直し、考え、未来を創造することに繋がっていきます。その学習拠点と

なる町歴史民俗資料館は、民具1,729点、埋蔵文化財に係る遺物等の天箱350箱などを展示・収蔵しています。これら歴史資料の保存や整備及びその活用を図ることは、町の歴史と文化を学び、地域を愛する心を育み、未来の猪苗代町を作り上げる強い力を育むものと考えています。多くの方に歴史民俗資料館にご来館いただき、より良い施設にすることができれば幸いです。



第3展示室-仕事と養蚕-

- 場 所 猪苗代町字城南34番地1
- 開 館 9時00分から16時30分まで
- 入 館 料 無料
- 休 館 日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、次の平日)
- お問合せ 猪苗代町図書館歴史情報館 (0242-23-7855)

「読書活動の推進に向けて」

福島県教育委員会では、福島すべての子ども達が読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう、「第四次福島子ども読書活動推進計画」を作成し取り組みを進めています。

その中で、会津教育事務所での2つの取組を紹介します。

1 読書活動支援者育成事業会津地区研修会

7月22日(月)に会津若松市北会津公民館において、会津地区の読書ボランティアや図書館支援員、教員等、50名の皆様に参加いただき実施しました。

研修会では、震災語り部の遠藤昭三氏による講話「東日本大震災・原子力災害を経験して段ボールアートを通し13年間の避難生活を語り伝える」と、福島県立図書館専門司書の田中信乃氏による「絵本読み聞かせ講座」が行われました。

参加された皆様からは、「読み聞かせを通して震災について後生へ伝えていきたい」「読み聞かせのポイントや子どもを引きつける技を学んだ」などの声をいただきました。

読書活動支援者の育成を通して、子ども達が読書に親しむ機会を増やしたり、本の魅力に気付く子どもを増やしたりすることができるものと考えています。

2 ビブリオバトル福島県大会会津地区予選会

8月31日(土)に会津若松市文化センターにおいて、出場者、観戦者、運営ボランティア等、計107名の皆様に参加いただき開催しました。

予選会では、出場者(中学生5名・高校生4名)が、お気に入りの本を5分で紹介し、その後の質疑応答2分、計7分の持ち時間で競いました。観戦者は、「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票を行いました。今年度は、西会津中学校の山口紗弥さんの『アリアドネの声』、葵高等学校の細井淳一朗さんの『あと十五秒で死ぬ』がチャンプ本に選ばれました。山口さん、細井さん両名は、10月に行われたビブリオバトル福島県大会で優勝し、細井さんは令和7年1月の全国大会において、見事「準優勝」に輝きました。おめでとうございます。また、山口さんは、令和7年3月の全国大会に出場します。ご健闘をお祈りします。

ビブリオバトルは各中学校・高等学校にも広がっています。今後も、ビブリオバトルを広めることで、子ども達が様々な種類の本に親しみ、読書の楽しみを味わうことができの一助となればと考えています。



読み聞かせのプログラム発表



ビブリオバトル会津地区予選パトラー

ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業

～幼稚園、小・中・義務教育学校、高等学校、市町村教育委員会等への相談・研修支援の紹介～

「支援が必要な子どもに対する合理的配慮を校内でどのように共有していけばよいのか。」

「切れ目のない支援と学びをつなげていくために、個別の指導計画や個別の教育支援計画をどのように活用していけばよいのか。」

今、教育の現場では、このような声が多く聞かれます。その背景には、特別支援教育に対する目的意識やニーズが高まるにつれて、悩みや困り感を抱える教職員が増加しているという実態があります。

さて、もしも皆さんが、同じような悩みや困り感を抱えたとしたら、どのように解決していきますか。私なら、「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」の相談・研修支援を活用します。皆さん、このような事業が展開されていることをご存じでしたか。

実際に、支援員の皆さんを対象とした研修支援の様子を紹介します。

各学校において、担任の先生方をサポートして下さる支援員の皆さんは、今や教育の現場に欠かすことができない存在です。今回行われた研修支援は、市町村教育委員会からの要請に応じて実施し、会津支援学校竹田校

と会津教育事務所が運営しました。参加した支援員さんからは、「自分と同じ悩みを感じている方と一緒に、悩みの対応方法について知ることができた。」「具体的にどうすればよいのかの情報たくさん聞くことができた。」など、悩みや困り感が軽減できたとの感想が寄せられました。

このように、相談・研修支援では、支援学校や特別支援教育センター、会津教育事務所がチームとなって、先生方の悩みや困り感に寄り添いながらサポートを行います。どうぞ積極的に御活用ください。

なお、相談・研修支援の概要や申請の手続きについては、QRコードで御確認ください。また、不明な点がございましたら、会津教育事務所の担当指導主事(土田)までお問い合わせください。



参加者の熱気が伝わってきます



概要



手続き

各学校の特色ある取組紹介

カリヨン祭でヒップホップダンス

会津若松市立小金井小学校

本校では、秋の「カリヨン祭」で6年生がヒップホップダンスを発表する活動が、約10年続いています。講師は地域のダンススクールの冠木先生にお願いし、小学校を巣立つ子どもたちへのメッセージを込めたテーマ曲に振り付けをしてもらっています。

今年はファンキーモンキーベイビーズの「悲しみなんて笑い飛ばせ」でした。輝く未来へ向かって進む子どもたちへの応援歌です。

～だけど僕らは何処かを目指すだろう 刻む夢の足跡
でも不安だって何だって 置いといてほら
判断は簡単さ単純に
空のように果てなく澄んだ思いを
いつまでも忘れないように・・・

(「悲しみなんて笑い飛ばせ」 FUNKY MONKEY BABYS)

今年の6年生が卒業文集に次の一文を載せています。

『練習の最初の方は、全然振り付けを覚えることができませんでしたが、冠木先生や友だちがとても優しく教えてくれたり、私のスピードに合わせて一緒におどってくれたりしました。』

私は「ダンスをちゃんとおどれるようになったら、とてもカッコイイな。」と思いました。

それからは、毎週末にタブレットを家に持ち帰り、動画を見て自主練習をしました。だんだんとおどれるようになっていくのが自分でもよくわかりました。

そして、カリヨン祭。とても緊張していましたが、おどりはじめたら、緊張はいつの間になくなっていました。あっという間にカリヨン祭が終わって、改めて「ダンスって楽しいし、面白いんだな。」と感じました。

これが私の6年間で一番の思い出です。』

友だちと関わり、自分の成長を感じることができた。そんな活動がこれからの子どもたちの心の糧となることを願い、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。



カリヨン祭でのダンス発表

夢や目標に向かい、仲間と共にチャレンジする子を育てる三つの取組

会津坂下町立坂下南小学校

本校は今年度から、「ドリーム&チャレンジ! ～あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん～」をスローガンに掲げ、教育活動を推進しています。スローガンを具現化する3つの取組を紹介いたします。

1つ目は、「校長室暗唱チャレンジ」です。校長先生が課題を出し、子ども達が家庭などで練習し、校長室で暗唱に挑戦するという取組です。暗唱合格までのステップは、①家族に聞いてもらう→②友達に聞いてもらう→③校長先生に聞いてもらい合格、という流れです。合格証を手にした子どもの表情は晴れやかで、達成感に満ちています。

2つ目は、自分の得意なことや好きなことを発表する「仲間と自分アピール発表会」です。一人で、またはペアやグループで音楽や運動、ダンス、手品、お笑いなど思い思いに発表します。仲間や先生方から温かい拍手や声援を受け、充実感

を味わっています。

3つ目は、「600m走チャレンジランキング大会」です。本校の課題である走力の向上を図ることがねらいです。自己ベストを目指し、仲間の応援を受けながら校庭3周を駆け抜けます。

3つの取組を通して、子ども達はチャレンジ精神を発揮し、認め合い、励まし合い、高め合い、自信を深め、仲間と自分の絆を強くしています。

「仲間と自分アピール発表会」
スゴ技! ヨーヨー

自己マネジメント力の育成

三島町立三島中学校

三島町では、「自律と貢献」を重視しながら、保育所及び小・中学校の連携目標として「ふるさとと自分の誇りを持ち、主体的に学び続ける子ども」を目指しています。特に本校においては、将来の夢に向けて自己マネジメント力の育成に力を入れています。

その取組の一つに、「重点資質・能力自己マネジメントシート」(以下、「シート」と表記)の活用があげられます。このシートの特徴は、本校で目指す資質・能力を生徒自身が年間を3か月ずつに分けられた四半期ごとに自己評価します。自己評価をするため、生徒自身が具体的にレベルA～Cで評価する姿を設定している点も特徴の一つです。

最大の特徴は、シートに記述した「自分が最もできたと思うこと」に対して、友達や教師、保護者からの称賛や励ましのコメントをもらうことです。これらの言葉が自己有用感や自己肯

定感を高め、自己マネジメント力の向上へとつながります。

なお、友達へのコメントは、友達のよいところを昇降口に掲示する「ほめポイント」の日常的な取組にも広がり、互いに認め合う人間関係づくりにもつながっています。また、このシートを通知票の行動の記録に代えており、担任の業務の精選にもつながっています。



重点資質・能力自己マネジメントシートで友達のよいところを記入している様子